

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 30 年 6 月 11 日現在

機関番号：32414

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26381141

研究課題名(和文) 日本人学校におけるグローバル人材育成にむけた新たな教育モデルの創出に関する研究

研究課題名(英文) Developing new education models to promote global human resources at Japanese schools abroad

研究代表者

佐藤 郡衛 (SATO, Gunei)

目白大学・人間学部・教授

研究者番号：20205909

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本人学校でどのようなグローバル人材が育成できるかをこれまでの実践報告の分析と調査等を通して明らかにすることを目的にした。日本人学校で育成可能な人材とは、グローバル型能力と英語力を兼ね備えた人材、バイカルチュラル・バイリンガルで二つの国の架け橋になる人材、現地コミュニティにおけるリーダーとなる人材、そして親日的な人材の4タイプである。香港日本人学校などを通してこうした人材育成の具体的な取り組みを検討し、日本人学校の新たな教育モデルを構築するための課題を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to find types of global human resources Japanese schools abroad can promote through the research and its analyses at Japanese School. It was found that main four types of such human resources are; (a) persons with both English and global capability, (b) bicultural and bilingual persons who bridge the two (local and Japan) countries, (c) persons who become leaders in the local community, (d) persons with pro-Japan attitude. This article examines various initiatives that have been made to develop such human resources and discuss challenges in developing new education models for Japanese schools abroad by a case study in Hong Kong Japanese school.

研究分野：異文化間教育学

キーワード：グローバル人材 海外子女教育 日本人学校 国際バカロレア

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、海外日本人学校におけるグローバル人材育成の可能性と課題について、東アジアの日本人学校を事例に検討したものである。研究開始当初は、グローバル人材の育成が政策課題になり、グローバルな競争を勝ち抜く力を身に付けた人材の育成が教育課題になっていた。しかし、多文化社会の進展とともに、国際競争に勝ち抜くグローバル人材という位置付けだけでは対応できなくなっている。そうした人材の育成には、教育全体の多様化を進めることが前提である。しかも、グローバル化の進展とともに多文化化が進行し、多様な背景を持つ人との共生が課題になってきた。そこで、教育においても改めて「グローバル・多文化的市民」の育成を現実のもとして構想する必要が出てきた。

日本人学校は、アジア地域を中心に、国際結婚家庭の子ども、外国人家庭の子ども等が増加し、子どもの多様化、多文化化が急速に進行している。そのため、多文化化した状況での教育の在り方が強く求められている。香港、中国、台湾などの日本人学校は、国際結婚家庭の子どもが多数在籍し、日本への帰国を前提とした子どもの教育のみでは対応しきれない状況にある。多様性を活かした新たな教育のあり方を具体的に検討することが大きな課題になってきた。

### 2. 研究の目的

本研究は、日本人学校においてどのようなグローバル人材の育成が可能かを検証することが目的である。日本人学校は 2000 年以降急速に国際結婚家庭の子どもが増加し、こうした内部の多様性を活かした教育をいかに行うかが課題となっている。日本人学校においてこそ、多様な背景をもつ他者と共生し、よりよい社会を形成しようとするような人材を育成することが強調されるようになってきたのである。国際競争に

打ち勝つ「国民国家的な日本人」を育成するのではなく、多様性を前提にし、「グローバル益」を追求できるような人材育成である。

本研究では、以上のような日本人学校の多様化といった背景を踏まえ、今後の日本人学校における新たな教育モデルを構築することを目指している。具体的には次の 2 点について検討した。第 1 は多文化化した日本人学校における教育活動を異文化間教育、市民性教育の視点から考察を加えることで、今後の日本人学校の教育の方向性や実践の指針を明確にすることである。第 2 は日本人学校の新たな教育モデルとして「国際バカロレア」(International Baccalaureate、IB と略)に注目し、その教育を日本人学校でどのように実践できるかを検証することである。

### 3. 研究の方法

研究方法は大きく 3 つである。1 つは東アジアの日本人学校を中心にしてこれまでの実践報告、研究紀要などから参考になる実践を収集し、分析することである。ここでは、蘇州日本人学校、香港日本人学校、上海日本人学校、台北日本人学校、台中日本人学校、高雄日本人学校、マレーシアのクアラルンプール日本人学校、シンガポール日本人学校、タイ日本人学校、アスンシオン日本人学校、この他、アメリカの西大和学園カリフォルニア校なども対象にして実践報告の分析を行い、参考になる実践を抽出した。

第 2 は質問紙調査の実施である。特に、蘇州日本人学校では、小学 1 年～6 年までの 349 名、中学 1 年～3 年までの 78 名、合計 427 名(全校児童生徒)を対象に学習と生活に関するアンケート調査を実施した。そのことで、子どもの実態に即した教育について検討した。

第3は現地調査である。蘇州日本人学校、香港日本人学校、クアラルンプール日本人学校、西大和学園カリフォルニア校を訪問し、学校運営委員会、校長、担当教師などにインタビュー調査を実施するとともに、授業観察などを行い、新しい教育実践の可能性を探った。

#### 4. 研究成果

研究成果としては、日本人学校で育成可能なグローバル人材のモデルを抽出したことである。第1は広い視野、論理的思考力、適応力、自己表現力などのグローバル型能力と英語力を兼ね備えた人材（香港日本人学校、シンガポール日本人学校等）、第2に日本語能力・外国語能力を持ち、二つの文化と社会を理解し二つの国の架け橋になる人材（台北日本人学校等）、第3に世界各国の日系人及び現地コミュニティにおけるリーダーとなるグローバルな人材（タイ日本人学校、アスンシオン日本人学校等）そして第4に日本社会・文化、日本語を理解し、日本を支援する親日的な人材（西大和学園カリフォルニア校等）の4タイプである。第1と第2のタイプは日本人学校の実践に、第3と第4のタイプについては、日本人学校の現地校との交流活動と同時に、日本人学校の人的・物的リソースを活用した取り組みに注目した。

今回は、この4つのタイプのうちグローバル型能力と英語力の育成を目指した取り組みを行っている香港日本人学校に注目した。香港日本人学校は、本研究の開始と同時に、新しい教育の取り組みを目指して改革を行うことになり、改革当初から研究の一環で関与してきた。香港日本人学校は、IBに準拠した教育を軸に改革を進めており、特設の「グローバルクラス」を立ち上げ、理科と算数の英語「イマ ジョン」教育、独自教科である「グローバル・スタディズ」といったプロジェクト学習を導入し

た。「グローバル・スタディズ」は、香港の課題をトピックにし、探求を核にした総合型のプロジェクト学習である。その単元の開発支援とグローバルな課題を協同で学習する「協働学習プロジェクト（Student Action Project：SAP）」のプログラムの単元の開発の支援を行い、実践にも関与してきた。2016年度に小学4年生のクラスを立ち上げ、2018年度は小学部の完成年度にあたる。

本研究を通して日本人学校の新たな教育モデルを構築するための実践の方向と課題が見えてきた。グローバルな社会では、多様性を認識し、差異を個性として尊重できるような人材が求められる。日本人学校では、グローバルな課題や現地の多様な課題を取り上げ、そうした課題の解決について協同で学習に取り組んでいくための実践やカリキュラム開発が不可欠である。その意味で、香港日本人学校の取り組みは今後の日本人学校の実践を進めていくうえで参考になる。

今後は、グローバル人材の他の3つのタイプについて具体の実践に即してどのように進めていくか、そのための課題を明らかにしていきたい。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）  
佐藤郡衛 「文化間移動とダイバーシティ」  
海外子女教育 530号 2017年 46-49頁

〔学会発表〕（計 件）

〔図書〕（計 件）

〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：

種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

佐藤 郡衛 (SATO Gunei)  
目白大学・人間学部・教授  
研究者番号：20205909

##### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

##### (4) 研究協力者

( )